# 23 『戦国策』「借虎威」

　求㆓メテ ＊百　獣㆒ヲ 而　食㆑ラヒ ヲ、得㆑タリ ヲ。①狐　ハク、　②無㆓カレ ヘテ 食㆒㆑ラフコト 我ヲ 也。③＊天　帝　使　我　長　百　獣。今、子　食㆑ラハバ 我ヲ、レ 逆㆓ラフ 天　帝ノ 命㆒ニ 。子　㆑テ 我ヲ ㆑サバ 　㆑ト 信ナラ、　㆑ニ 子ノ 先　行セン。子　㆓ヒテ 我ガ 後㆒ニ ヨ。百　獣 　見㆑テ 我ヲ、而 ④敢ヘテ ㆑ラン 走ラ ト。⑤虎　以テ ㆑ス 然。ニ ニ ㆑Ａ　行ク。獣 見㆑テ Ｂ之ヲ 皆 走ル。虎 不㆑ル 知㆓ラ 獣ノ ㆑レテ 己ヲ 而　走㆒ルヲ 也。以テ 為㆑ス 畏㆑ルト 狐ヲ 也。

語注

百獣＝たくさんの獣。

天帝＝天を支配する神。

問１　傍線部①とあるが、狐の言葉はどこまでか。最後の三字を抜き出せ。ただし、句読点は含まない。また、返り点・送り仮名は不要である。（5点）

〔　　　　　　〕

問２　傍線部②・④について、

⑴書き下し文にせよ。（5点×2）

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

④〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵口語訳せよ。（5点×2）

②〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

④〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部③は「てんていわれをしてひやくじうにちやうたらしむ」と読む。この読み方に従って原文に訓点（返り点・送り仮名）を付けよ。（6点）

天　　帝　　使　　我　　長　　百　　獣

問４　傍線部⑤はどういうことをいうのか。最も適当なものを次から選べ。（5点）

ア　虎は自分の考えたとおりだと思ったということ。

イ　虎は狐の言葉をなるほどと思ったということ。

ウ　虎は狐にだまされているのではないかと思ったということ。

エ　虎は自然の成り行きに任せたほうがよいと思ったということ。

〔　　　〕

問５　二重傍線部Ａ・Ｂの「之」はそれぞれ何を指すか。その組み合わせとして正しいものを、次から選べ。（4点）

ア　Ａ＝虎　Ｂ＝虎

イ　Ａ＝虎　Ｂ＝狐

ウ　Ａ＝虎　Ｂ＝虎と狐

エ　Ａ＝狐　Ｂ＝狐

オ　Ａ＝狐　Ｂ＝虎

カ　Ａ＝狐　Ｂ＝虎と狐

〔　　　〕

問６　本文の内容と合致するものを、次から選べ。（5点）

ア　虎は、獣たちが狐を恐れるのはその存在が偉大であるからだと思い、の念を抱いた。

イ　虎は、獣たちが自分を恐れて逃げ出したのか、狐を恐れて逃げ出したのかがわからなかった。

ウ　虎は、獣たちが自分を恐れて逃げ出したことに気づかず、狐を恐れているのだと思った。

エ　虎は、獣たちが天を支配する神の命令に逆らえずにいるのを見て、狐を食い殺すのをやめた。

〔　　　〕

問７　本文において、狐はどんな人物にたとえることができるか。最も適当なものを、次から選べ。（5点）

ア　強者と協力して権勢を手に入れ、天下を取ろうとする人物。

イ　強者の権勢を手に入れようとする、で意志強固な人物。

ウ　強者の権勢を巧みに利用し、自分を誇示して得意がる人物。

エ　強者と協力して成しえたことを、自己の手柄として誇る人物。

〔　　　〕

練習問題〈故事成語④〉

次の意味を後から選べ。

①　（　　　）

②　の（　　　）

③　の交わり（　　　）

④　（　　　）

⑤　白眼視（　　　）

⑥　（　　　）

⑦　（　　　）

⑧　（　　　）

⑨　に帰す（　　　）

⑩　に冠を正さず（　　　）

ア　冷淡な態度を取ること。

イ　前例のないこと。

ウ　特に優れた人をさすことば。

エ　計画や仕事がいい加減で、間違いが多いこと。

オ　己の心を知り尽くしてくれている友人。

カ　夫婦仲や、友としての関係が非常に親密なこと。

キ　いくらかの差はあるが、本質的には同じだということ。

ク　多くの中のわずかな一部分のたとえ。

ケ　人から嫌疑をうけるような行為はすべきではないという誡め。

コ　火事などで、すべてを無くすこと。

【解答】

問1　不走乎

問2

②⑴　敢へて我を食らふこと無かれ

⑵　決して私を食べてはいけません

④⑴　敢へて走らざらんや（と）

⑵　どうして逃げ出さないでしょうか、いや必ず逃げ出します

問3　天　帝　使㆔ム　我ヲシテ 長㆓タラ 百　獣㆒ニ

問4　イ

問5　オ

問6　ウ

問7　ウ

【練習問題　解答】

①キ　②ク　③カ　④オ　⑤ア　⑥ウ　⑦イ　⑧エ　⑨コ　⑩ケ